

報道関係各位

大谷大学博物館 2019年度特別展

「柳^{やなぎ}宗悦^{むねよし}・棟方志功^{むなかたしこう}と真宗^{まね} - 土徳^{どとく}の大地と民藝の美 -」を開催

民藝運動の父と、日本を代表する版画家に影響を与えた越中真宗の信仰風土「土徳」について
二人の著作や作品とともに紹介します。

会期：2019年10月12日(土)～11月28日(木)

大谷大学(所在:京都市北区小山上総町)は、2019年10月12日(土)～11月28日(木)の期間、大谷大学博物館にて2019年度特別展「柳宗悦・棟方志功と真宗 - 土徳の大地と民藝の美 -」を開催します。

大谷大学博物館は、真宗学・仏教学・歴史学・文学など世界的に貴重な典籍、考古遺物、民俗資料など約12,000点を所蔵。年4回の企画展と年1回の特別展を地域に広く公開し、文化財を間近でみることができる博物館です。

特別展では、民藝運動の父と呼ばれる思想家の柳宗悦(1889～1961)と、その柳に才能を見出され、生涯柳を師と慕った日本を代表する版画家の棟方志功(1903～1975)が戦中・戦後に大きな影響を受けた、真宗王国越中富山の人びとの生活に息づく信仰風土「土徳」について二人の著作や作品とともに紹介します。

(主要展示作品一例)※名称の先頭に記載の数字は別紙「出陳内容一覧」に対応



9 柳宗悦墨蹟「大悲」1幅/紙本墨書

昭和時代(20世紀)/城端別院善徳寺(南砺市)

「型絵染」の技法で多くの作品を生み出した染色工芸家であり、柳とともに民藝運動を担った人間国宝の芹澤銈介が阿弥陀如来をあらわす梵字の「キリーク」を書し、その上に、全ての衆生を救わんと願う阿弥陀如来の「大悲」を柳が書した作品。

墨蹟でありながら阿弥陀如来の存在と、その大悲・大願が立体的に感じられる。

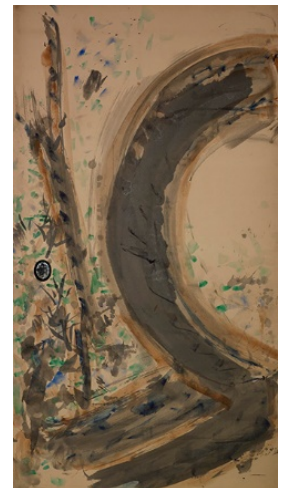
35 棟方志功「天に伸ぶ杉木」(部分) 襖4枚(表裏8面) /紙本着色

昭和時代(昭和33年=1958)/真宗大谷派(東本願寺)

東本願寺涉成園園林堂仏間の襖絵。本作品は、昭和28年(1953)に焼失した園林堂再建の翌年、親鸞七百回御遠忌記念事業として、棟方が描いたもの。

この画題を選んだ背景には、奈良県十津川村玉置神社を訪れ、杉の巨木を見たときに感じたインスピレーションがあったとされる。

うねるような幹や枝から樹齢を重ねた杉の強い生命力を感じとることができる。



<本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先>

大谷大学 企画課 安井・平岡・松尾 TEL:075-411-8115 FAX:075-411-8149

<一般の皆様からのお問合せ先>

大谷大学博物館 TEL:075-411-8483 http://www.otani.ac.jp/kvo_kikan/museum/

「柳宗悦・棟方志功と真宗—土徳の大地と民藝の美—」開催概要

- 会 期 : 2019年10月12日(土)～11月28日(木)
開館時間 : 午前10時～午後5時(入館は閉館の30分前まで)
休 館 日 : 日曜日・月曜日、10/22(火・祝)
(ただし11月10日〔日〕・24日〔日〕・25日〔月〕は開館)
観 覧 料 : 一般・大学生／500円
場 所 : 大谷大学博物館(京都市北区小山上総町 大谷大学 響流館1F)
※京都市営地下鉄烏丸線国際会館行「北大路」駅下車、6番出口すぐ
※市バス「北大路バスターミナル」、「下総町」、「烏丸北大路下車」
主 催 : 大谷大学博物館
後 援 : 京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会、
京都市内博物館施設連絡協議会、京都新聞社、真宗大谷派(東本願寺)
協 力 : エフエム京都

(特別展見どころ)

暮らしのなかの実用品に「用の美」を発見し、それらの生活道具を民藝(民衆的工芸)と名づけたのは、思想家の柳宗悦でした。柳はみずからの「直観」によって、国内外の民藝作品を数多く蒐集^{しゅうしゅう}するとともに民藝運動を展開しました。そして、その柳に才能を見出され、生涯柳を師と慕ったのが板画家の棟方志功でした。

二人はともに戦中・戦後に真宗王国越中富山の人びとの生活に息づく信仰風土「土徳」と出会い、大きな影響を受けました。柳は「仏教美学」という思想を確立し、棟方も自分ではない「他力」による創作活動に取り組むようになったのです。本展覧会では、柳・棟方に影響を与えた越中真宗の信仰風土「土徳」について二人の著作や作品とともに紹介します。

【記念講演会】

●「美の法門と真宗」

講 師 : 太田浩史氏(日本民藝協会 常任理事／真宗大谷派大福寺[南砺市] 住職／となみ民藝協会 会長)

講演日 : 10月29日(火)14時～

場 所 : 大谷大学響流館3階 メディアホール

※聴講無料・事前申込不要

●「柳宗悦と棟方志功 往復書簡を通して探る “南砺時代、”

講 師 : 石井頼子氏(棟方志功研究家・棟方志功の初孫)

講演日 : 11月23日(土・祝)14時～

会場 : 大谷大学響流館3階 メディアホール

※聴講無料・事前申込不要

■出陳内容一覧

□富山県指定有形文化財					
前期：10/12～11/2 後期：11/5～11/28					
番号	名称	員数	時代	所蔵者	展示期間
第1章 真宗と土徳の大地					
1	親鸞聖人像（六角堂御通木像）	1躯	江戸時代（17世紀）	城端別院善徳寺（南砺市）	
2	□ 聖徳太子像	1躯	室町時代（15世紀）	城端別院善徳寺（南砺市）	
3	□ □ 如上人像（御満足の御木像）	1躯	室町時代（16世紀）	城端別院善徳寺（南砺市）	
4	□ 方便法身尊像	1幅	室町時代（天文8年＝1539）	城端別院善徳寺（南砺市）	
5	六字名号	1幅	室町時代（15世紀）	城端別院善徳寺（南砺市）	
6	歎異抄	1冊	室町時代（永正16年＝1519）	大谷大学博物館	
第2章 柳宗悦一美と仏教					
7	□ 三帖和讃（色紙和讃）	3帖	室町時代（天文22年＝1553）	城端別院善徳寺（南砺市）	
8	柳宗悦墨蹟「念々ノ称名ハ念仏ガ念仏ヲ申ス也」	1幅	昭和時代（昭和23年＝1948）	城端別院善徳寺（南砺市）	
9	柳宗悦墨蹟「大悲」	1幅	昭和時代（20世紀）	城端別院善徳寺（南砺市）	
10	仏説無量寿経 巻上	1帖	室町時代（15世紀）	大谷大学博物館	
11	原稿「无有好醜の願」	1冊	昭和時代（昭和30年＝1955）	日本民藝館（東京都目黒区）	
12	法然上人像	1幅	昭和時代（20世紀）	大福寺（南砺市）	
13	一枚起請文	1幅	室町時代（16世紀）	大谷大学博物館	
14	大津絵 阿弥陀如来	1幅	江戸時代（17世紀）	日本民藝館（東京都目黒区）	
15	妙好人伝	1冊	江戸時代（天保13年＝1842）	大谷大学図書館	
16	柳宗悦墨蹟「无有好醜願」	1幅	昭和時代（20世紀）	大福寺（南砺市）	
17	柳宗悦墨蹟「ワガ眼ナラジナ 弥陀見ルハ」	1幅	昭和時代（20世紀）	大福寺（南砺市）	
18	柳宗悦墨蹟「美之法門 无有好醜願」	1幅	昭和時代（20世紀）	大福寺（南砺市）	
19	蓮如上人絵伝	2幅	江戸時代（19世紀）	大福寺（南砺市）	
20	白磁壺	1口	朝鮮時代（16世紀）	大福寺（南砺市）	
21	柳宗悦『美の法門』（私版本）	1冊	昭和時代（昭和24年＝1949）	大福寺（南砺市）	
22	柳宗悦『法と美』（私版本）	1冊	昭和時代（昭和36年＝1961）	大福寺（南砺市）	
23	石黒連州墨蹟「蓮師距世五百歳遺教連綿日々新苦心経営只一事梵音久遠潤蒼生」	1幅	昭和時代（昭和47年＝1972）	城端別院善徳寺（南砺市）	
24	石黒連州「美之法門開闢縁起圖巻」	2巻	昭和時代（昭和31年＝1956）	日本民藝館（東京都目黒区）	
第3章 棟方志功の作品と仏教					
25	棟方志功「親十方无碍仏図」	1幅	昭和時代（20世紀）	大福寺（南砺市）	
26-1	棟方志功墨蹟「無量寿経文」（我建超世願）	2幅	昭和時代（20世紀）	大福寺（南砺市）	
-2	棟方志功墨蹟「無量寿経文」（必至無上道）				
27	棟方志功「黄金仏尊図」	1幅	昭和時代（昭和22年＝1947）	光徳寺（南砺市）	
28-1	棟方志功「蓮如大言」	2幅	昭和時代（昭和23年＝1948）	光徳寺（南砺市）	前期
-2	棟方志功「光徳寺起鐘記」				
29	棟方志功「□ 如上人御忌ポスター」	1面	昭和時代（昭和30年＝1955）	光徳寺（南砺市）	
30	棟方志功「今日モアリ オホケナクモ」（「心偽頌七十二冊」のうち）	1面	昭和時代（20世紀）	光徳寺（南砺市）	
31	棟方志功「六字トナ 無字ナルニ」（「心偽頌七十二冊」のうち）	1面	昭和時代（20世紀）	光徳寺（南砺市）	
32	棟方志功「躑躅山光徳寺風光図」	1幅	昭和時代（昭和32年＝1957）	光徳寺（南砺市）	前期
33	棟方志功「□ 如上人の柵」	1面	昭和時代（20世紀）	光徳寺（南砺市）	
34-1	棟方志功「帰命尽十方無碍光御如来」	2幅	昭和時代（昭和38年＝1963）	光徳寺（南砺市）	後期
-2	棟方志功「如来三尊御図」				
35	棟方志功「天に伸ぶ杉木」	4枚8面 (8枚16面のうち)	昭和時代（昭和33年＝1958）	真宗大谷派（東本願寺）	
36	棟方志功「天女」	1面	昭和時代（20世紀）	真宗大谷派（東本願寺）	
37	棟方志功「天妃乾坤願」	1面	昭和時代（20世紀）	真宗大谷派（東本願寺）	
38	棟方志功「富楼那」	1面	昭和時代（昭和32年＝1957）	真宗大谷派（東本願寺）	

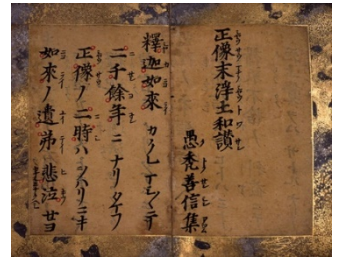
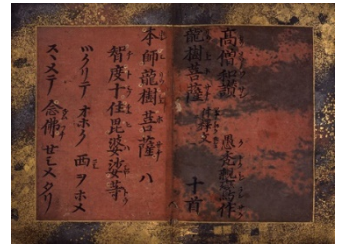
(その他主要展示作品紹介)

7 三帖和讃(色紙和讃)3帖 /紙本木版

室町時代(天文 22 年=1553)/ 城端別院善徳寺(南砺市)

親鸞が著した『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃』と『正信偈』を開版し、勤行の基本としたのは蓮如である。昭和 21 年(1946)5 月、城端別院を訪れ、この色紙和讃を見た柳は大変に感動し、民衆信仰の拠り所となった点に美を見出した。本品は、蓮如が開版した文明本に校訂を加え、天文 22 年(1553)に刷られたことが当時の記録『私心記』などからわかっている。

(上『高僧和讃』 / 下『正像末和讃』)

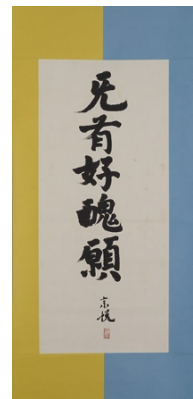


16 柳宗悦墨蹟「无有好醜願」一幅紙 /本墨書

昭和時代(20 世紀)/大福寺(南砺市)

柳の美への確信をもたらしたのが、衆生済度を願う法蔵菩薩(阿弥陀如来の修業時代の名前)が建てた四十八願の内の第四番目の願である。

「自分が仏になる時、もしも国中の全ての存在のなかに「好醜」の違いがあるのならば、決して自分は悟りを開かない」という決意を表明した願で、柳の美に対する思想の拠り所となり、しばしば墨書している。



27 棟方志功「黄金仏尊図」1幅 /紙本著色

昭和時代(昭和 22 年=1947)/光徳寺(南砺市)

黄金に輝く阿弥陀如来の像が描かれた倭画で、光徳寺に代々伝わる本尊阿弥陀如来像を描いたもの。光徳寺の本尊はその開基道乗が加賀国との境にあたる砂子坂で蓮如に帰依した際、蓮如みずから「たたら」を踏んで制作して授与したものと伝わる。真宗寺院で鑄造仏は珍しいが、職能民への真宗信仰の伝播をうかがわせる作品といえる。



33 棟方志功「蓮如上人の柵」1面 /紙本木版

昭和時代(20 世紀)一面 /光徳寺(南砺市)

旅装束の蓮如が描かれた板画。戦国時代にあつて、蓮如の教えはまたたくまにひろまった。数多の苦難を乗り越え北国に教えを伝えた力強い蓮如の風貌が刻まれた作品。

